

オーディオ実験室収載

ZANDEN Model 120 の活用(13) —Model 120 設定条件の試聴(13)—

1. 始めに

前報(12)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。前報(12)まではレーベルをまとめて試聴してきましたが、今回は、同じような曲でレーベル違いの盤を選定してみました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス／バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記のベートーベンのピアノソナタ選んで聴いていきます。

Sharlin PA-1116 (TRIO)

ベートーベン：ピアノソナタ第 31 番変イ長調・第 32 番ハ短調
エリック・ハイドシェック

Sharlin PA-1117 (TRIO)

ベートーベン：ピアノソナタ第 28 番イ長調・第 30 番ホ長調
エリック・ハイドシェック

LONDON CS6366

ベートーベン：ピアノソナタ第 12 番 A FLAT・第 18 番 E FLAT
ウイルヘルム・バックハウス

LONDON SLA1043(キングレコード)

ベートーベン：ピアノソナタ第 8 番ハ短調・第 14 番ハ短調

第 21 番ハ短調

ラドー・ルプー

CBS SONY 25AC100

ベートーベン：ピアノソナタ第 23 番ヘ短調・第 18 番変ホ長調

ラザール・ベルマン

ドイツグラモフォン MG2367 (日本ポリドール)

ベートーベン：ピアノソナタ第 31 番変イ長調・第 32 番ハ短調

ウイルヘルム・ケンプ

ドイツグラモフォン MG2366 (日本ポリドール)

ベートーベン：ピアノソナタ第 28 番変ロ長調・第 29 番変ロ長調

第 30 番ホ長調

ウイルヘルム・ケンプ

3. Model 120 設定条件の試聴結果

今回はベートーベンのピアノソナタでレーベル間の違いに注目して聴いていきます。

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

Sharlin PA-1116 (TRIO) と Sharlin PA-1117 (TRIO) のハイドシェックは、すでに前報(5)で試聴しており、EMI、逆相、第 4 時定数が Mid となっています。再度、聴きなおしてみましたが、修正する必要はなさそうです。

LONDON CS6366 のバックハウスは、常識的には DECCA の逆相かということで、ここからスタートしましたが、これで決まりという印象です。第 4 時定数は High から Mid にしますと、響き具合が良くなります。装丁には、DECCA 制作で、Agent が LONDON と書いてあり、どうやらオリジナル盤のようです。

LONDON SLA1043 のルプーも、常識的には DECCA の逆相かと思いましたが、少し強調感が強いようで、EMI と TELDEC を試したところ、TELDEC が落ち着いてしつくり来ます。ZANDEN のリストでも LONDON レーベルには DECCA と

TELDEC があり、DECCA はオリジナル盤とのことです。第 4 時定数も変えてみて、High から Mid にすると賑やかになりすぎ、TELDEC、逆相、High となりました。

CBS SONY 25AC100 のベルマンは、RIAA の正相からスタートしましたが、定位が曖昧なので逆相にし、カーブを替えてきました。TELDEC、EMI、DECCA いずれも強調感があり、Columbia カーブで落ち着きました。Columbia、逆相で、第 4 時定数を High から Mid、Low にしていきますと、鋭角的なベルマンのタッチが甘くなりますので、High を取ります。

ドイツグラモフォン MG2367 とドイツグラモフォン MG2366 のケンプは、TELDEC の逆相に決まりで、第 4 時定数は、High ではエッジが効きすぎるので、Mid

くらいに調整しました。Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、位相反転すると、ケンプらしい鋭角的なタッチがより明瞭になります。

4. まとめ

4 レーベル、5人のピアニストによるベートーベンのピアノソナタの演奏を聴いたわけですが、レーベル毎の最適の条件があり、その条件を選ぶと、おのおののピアニストがベートーベンをどう解釈してどのように表現しているのかまで分かるようです。LONDON レーベルのバックハウスとルプーの2枚の盤は最適な条件が異なりましたが、制作過程の違いを反映しているようです。

以上